

下野市産業振興計画策定委員会（第5回）

会議要録

【開催日時】 平成27年1月20日（火） 午前10時～午前11時25分

【開催場所】 南河内公民館 会議室

【出欠】 出席委員：9名（内、公募市民1名、オブザーバー：1名）、欠席委員3名。
事務局：4名、コンサル：2名。

【傍聴者数】 0名

【配布資料】

- 1 下野市産業振興計画(素案)

【議事】

1 開会

2 あいさつ

（委員長）

前回会議では、この産業振興計画が机上のものだけで終わることなく、行政で着実に計画を実行していただける内容になるようご議論いただいたが、今回も引き続きこうした目線で計画案をご議論いただくことで、市長のお考えと大きく違わないような内容を盛り込めるのではと思っている。ご議論のほどよろしくお願い申し上げたい。

3 議事

（1）下野市産業振興計画素案について

① 前回会議からの変更点について

② 第5章 基本目標3、4及び第6章 計画の推進について

●コンサルは①、②について説明し、続けて事務局から補足説明があった。

（委員等から次のような意見があった。）

○委員長は、ここまでの内容について委員に意見を促した。

（委員長）

私から質問させていただくが、P47の第3節（1）について、自治医科大学と民間が連携するということを出した内容になっているが、そうすると行政の位置づけはどのようになるのか。

（コンサル）

行政としてはそれをプロデュースしていくということである。

（委員長）

いわゆる産学官連携という場合に、この文言だけだと官が引いてしまったという感じがする。

（コンサル）

その部分を入れたほうが良いかもしれない。検討させていただきたい。

(委員長)

P80「4. 雇用・就業機会の拡充」について何かご意見のある方はいらっしゃるか。伝統産業である結城紬をされていた委員は、これについていかがか。

(委員)

もう少し早くこうした取組みをしてもらえたらもっと長く続けていられたのではないかと思っている。少々「今更」という気がする。

(委員長)

「今更」というところを踏み込んで内容を教えていただきたい

(委員)

小山市は本当に真剣に取り組んでいた。支援制度も充実していたし、市長が先頭に立って何とか売ろうとしてくれていた。成人式に利用していただいたり、展示会を開いても足を運んでくださったりしていた。

(委員長)

なるほど。今のご意見についてなにかあればどうぞ。

(委員)

お菓子の職人はほとんど雇用できない状況で、志のない人にどのように教育していくかというのは課題ではある。時間をかけてやっていくしかない。若者の雇用の支援と書いてあるが、下野市にハローワークはないし、小山に若者向けのハローワークが出来たと聞くが、市としてどう支援していただけるのかという部分は疑問を持たざるを得ない。お菓子職人を志している若者を集めるのは下野市では非常に難しい状況であるので、文面として書かれてはいるが、具体的に何をするのかということが見えてこない。

(事務局)

ご意見いただき感謝申し上げます。市でも新市庁舎を作る際にふるさとハローワークができないかということでハローワークと折衝はしていたのだが、人口が6万人程度であるとハローワークの事務所を置くまでの規模ではないということであった。また結城紬の件だが昔は県内で3万反ほど作られていたが、今では1,800反ほどで生産が激減している状況である。中心地が小山市なので、小山市はかなり手厚い支援をしているのも事実である。現在10名程度の方で下野市の結城紬の組合を作っているが、残念ながら小山市ほどの手厚い状況にはなっていない。

(委員長)

ハローワークは労働局の出先機関であるわけだが、市単独でハローワークの機能を果たしているのはどこなのか。

(事務局)

商工観光課のほうに含まれている。10万人以下の市町になると残念ながら雇用施策は国の施策、ハローワークに頼っているというのが現状である。市ではハローワークの情報を皆さんに提供することが主で、直接にハローワーク的な役割を果たすこ

とは少ない。

(委員)

P57 をみると、同時進行で全てのことが進められれば理想的であるが、事業の実施主体が商工観光課であるものが多く、これだけの事業を商工観光課が担当しながら同時に進めるのは難しいと思うので、ある程度優先順位をつけてやっていった方がいいのではないか。

(事務局)

今ご指摘の件については、P58、59にあるように、優先する施策を「重点施策」として示している。実施時期については、事業毎に「検討」や「実施」という表記を用いて各年度での実施状況を示している。新規事業については可能な限り早めに実施したいと思っている。

(委員長)

予算については書かないのが通常なのか。

(事務局)

計画に予算を計上する予定はない。

(委員長)

承知した。それでは委員の皆様、他にご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員)

計画自体はこれで概ね良いだろうと思う。細かな点については、事前に商工観光課に申し上げたのだが、P66 に「市内事業所の 8 割を占める中小企業が～」とあるが、市では大企業が 3、4% で 95% が中小企業なので、8 割ではなく 9 割と修正していただきたいというのが一点である。また、二点目は、その内 85% ほどは小規模事業者であり、国の施策ということで P13 に「小規模基本法」と「小規模支援法」について記載があるが、P66 にもこの施策についての記述を入れていただきたいということである。三点目は、P69 の「共通商品券の発行」に使われている写真が古いものなので新しいものに差し替えてほしいということ、四点目は、P70 に新規事業として「(仮称) 南河内地区立地企業協議会の設置」が挙げられているが、坪山工業団地会として昨年 10 月に設立はされているようなので、ここは削除したほうがよいということである。以上を内容について要望させていただいた次第である。

(事務局)

今のご指摘に関しては修正するというのでよろしくお願ひ申し上げたい。

(委員長)

産業施策というと個人的には非常に大きい話に感じてしまうのだが、中小企業ということでもいいのか。零細企業という言葉は今使わないのか。

(委員)

中小企業というよりは小規模事業者の方が良い気がする。下野市においては中小企業よりは小規模事業者の方が多い。国も明確に分けていて、中小企業というところの

辺りでいうところの結構大きな企業が相当する。小規模事業者というのは家族単位や4、5人の企業のことであり、こちらの方を商工会ではメインでやっている。

(委員)

先ほどの説明の中でアンテナショップの話が出ていたが、ソラマチで下野市の産品が販売されていると聞いている。売れているのか。

(事務局)

県では、まずテストでアンテナショップに出品していただきその中で売れたものだけ常時おくという手法をとっている。下野市では干瓢、とちおとめ関連のグッズ、レモン牛乳関連のグッズなどが8品程度出品されている。一月で14、5万程度の売り上げである。

(委員)

場所的にも目立たないところにあるよう思う。

(事務局)

良い場所に出展すると、その分市の負担金も多くなるので、現状ではやむを得ない部分もある。

(委員長)

他にご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員)

私のところではサービス業ということで車の修理関係をしており、現状は非常に忙しいのであるが、技術革新が日進月歩ということを見ると、当社の将来性は心細くなってきている。当社のような業種もどんどん数が減ってきているというデータもあるし、仕事量も一時期に比べると減少しているという現状もある。先ほどの紬の件もそうだが、中小企業の昔からある技術や既存産業の保護に対して町をあげて取組んでいるようには思えない。経済的に支援すればそれでよいかというところではないと思うが、既存産業が今後も継続できるような支援をした方がいいのではないか。先ほどのハローワークの件もそうだが、文言で述べている方向性と具体的にやれることとのミスマッチが起きているように思う。

(オブザーバー)

私は産業技術センターに所属しており、その立場から言えることを何点か述べさせていただきます。まず、産業技術支援センターには、紬織物技術支援センターがある。所長以下、技術の伝承や販売力の強い製品の開発に励んでいるので、是非ご活用いただければと思っています。次に中小企業の人材育成については、産業技術センターで技術支援や研修会を活発に行っている。全ての分野を網羅しているわけではないが、研磨や溶接、酒や納豆、乳酸菌等の食品技術などを習得し活用していただけるようお手伝いをしている。是非本計画にも位置づけていただき、ご活用願いたい。

最後に、P47の課題を施策にどのように位置づけるかということが重要である。特に

関連してくる施策は P73 の「ア. 企業立地優遇制度の創設」だと思う。現在は地域間競争も激しく、切っても切り離せない話である。このような中で、下野市に居ることがよいことなのだ、他所から下野市に移ってくるのがよいことなのだという状況を作っていかななくてはならない。今、市に立地いただいている企業さんが、これからもずっと居続けてくれるとも限らない。また、設備の減価償却を考えると、行政がその設備からいただける税金というのは毎年下がる計算になる。何もしなければ市が今の収入を維持することは難しい。他所から多くの企業に来ていただくということは、今の医療、福祉等のサービスを維持・向上する上でも欠かせないものである。加えて、既存の立地企業も大事にしなくてはならない。こうしたことをもっと強く打ち出したほうが良いと思う。

(委員長)

ご意見いただき感謝申し上げます。その他、文言の修正等の要望はないか。ご意見があればどうぞ。観光協会からお越しいただいている委員は、計画の内容についてはいかがか。

(委員)

観光協会も昨年から社団法人化され、観光協会としての独自性を求められている時期である。下野市の中では観光を生業する人が少ない上に、下野市は歴史があるといえどほとんどが埋蔵文化財であり、目に見えるものが少ないというのが現状である。このような現状を踏まえ、どのように観光に結び付けていくかという課題がある。計画の中では、「観光協会と連携して」という文言があったが、我々も行政といかに関わっていくかについて考えていかなければならないと思っている。計画の内容についてはこれで問題はないと思う。

(委員長)

では、以上で議事は全て終了した。事務局の方で連絡等があればどうぞ。

(2) 今後の予定について

(事務局)

パブリックコメント終了後、2～3月頃、第6回会議を開催予定。

(3) その他

(委員長)

ほかにご意見はあるか。ないようなので、閉会とする。

5 閉会 (11:25)